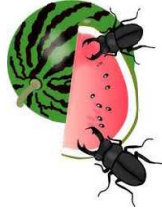


# ぎふこくご

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

発行 平成二十七年七月二十七日

号外



## 巻頭言

### 平成二十九年度の全国大会に向けて新たな出発を 岐阜県中学校国語科研究部会会長 宮島康広

岐阜市立加納中学校長小林正徳会長の後、会長の任を受けることとなりました、大垣市立興文中学校の宮島康広です。力不足ではありますが、皆さんのお力添えを得て、岐阜県中学校国語研究会をより充実したものとしていきたいと考えております。どうかよろしく申し上げます。

皆さんご存知のとおり、平成二十九年十月二十六・二十七日に、ホテルグランヴェール岐山を全体会場、岐阜市立加納中学

校・陽南中学校、岐阜大学教育学部附属中学校を授業会場として、全国大会を開催することが決定しております。

それに伴い、本年度の研究主題も全国大会での研究主題と一本化し、「生きてはたらく言語能力の育成」としました。アクトイブラーニングや単元を貫く言語活動」が話題となっている中、岐阜県では従来から、「生徒が将来出会うであろう学びや仕事・生活の場面で活用することができる国語の力の育成」

を目指してきました。そういった長年の研究の成果や真摯に学ぶ生徒の姿を、誇りをもって全国へ発信していこうと思つていきます。

岐阜県での全国大会の開催は、平成五年度にも行われています。当時、私は全国大会の主務者でした。その時の最も大きな課題は「岐阜地区以外の先生方など」のような形で全国大会に参画していただくのか」ということでした。各地区での優れた実践を全国へ発信していきたいという願いの下、地区ごとに研究領域を設定して継続的な研究をお願いし、各地区の代表者に分科会で発表をしていただきました。

今回も、同様に領域の担当地区を設定し、それぞれの実践成果を発表していただくこととしています。この担当地区の割り

振りについては、地区によっては教科研究会がすでに終わつていて、十分な情報提供ができなかつたり、会員全体での検討ができなかつたりした地区もありますが、県下すべての会員が何らかの形で全国大会に参画するという趣旨を大切にしてご理解をお願いしたいと思つています。

平成二十七年度には詳細な計画を立案し、平成二十八年度末には研究成果の収集や全国大会の運営の分担をお願いすることになります。本年度を全国大会に向けた新たな出発点としてご理解とご協力をお願いします。



# 中国研全国大会 岐阜大会に向けて

中学校国語科研究部会 主務 今井 則雄

## 一 可茂大会を振り返って

平成二十六年度行われた可茂大会では、明日に生きる言語能力具体化「一覧表」や単元を貫く言語活動「が明記された単元指導計画」など、岐阜県で大切にしたい授業構想を提案することができました。また、中部中学校や可茂地区の先生方の協力をいただき、すばらしい授業、実践提案ができたと思います。本当にありがとうございました。

私たち国語人にとって今日的な課題を解決するために必要な要素が盛り込まれていたと思います。特に、B書くこと領域における材料の吟味やC読むこと領域における言語活動の在り方について、さらに検討を進めていく必要があると思いました。

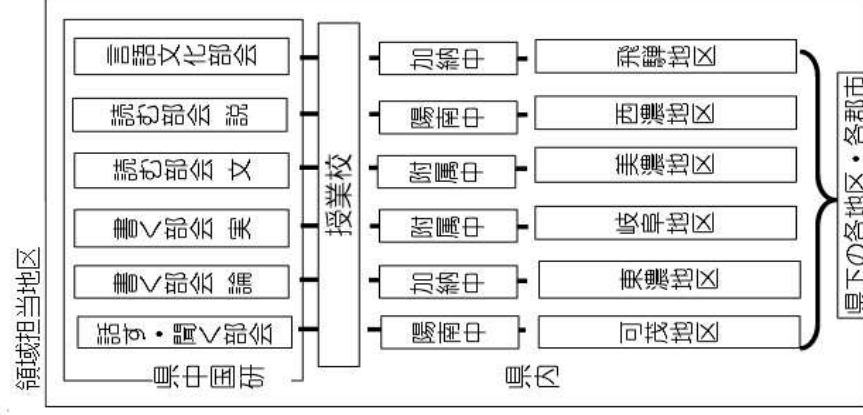
## 二 全国大会に向けて

平成五年度に行われた前回の

全国大会から脈々と繋がってきた「明日に生きる言語能力の育成」を一新し、新たな研究主題「生きてはたらく言語能力の育成」言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」を掲げ、平成二十九年度の全国大会への歩み出しを始めます。

思い返してみると平成二十四年度に現在の学習指導要領が全面実施示されて以来、学校現場では「言語活動」ということが盛んに言われるようになりました。生徒の思考力・判断力・表現力の伸長をめざし、全教科に渡って多様な言語活動を取り入れる方針が示されたからです。

平成二十八年度末に改訂される学習指導要領の改訂のポイントの一つに「目標とすべき習得すべき資質・能力」を念頭におく。」と文部科学省前川喜平氏は述べています。『教職研修』



4月号、教育開発研究所) このことから分かるように、何を教えるか」ということに終始するのではなく、どう教えるのか」ということを考えていかなければならないと思います。まさに、「教科書で教える」ということなのだと思います。そう考えた時に、今以上に実生活や実社会で「生きてはたらく」力を育成していかなければなりません。また、その力を育成していくためにアクティブ・ラーニングという方法を取り入れていくことも必要となつていきます。グループ・ディスカッション、ダイアログ、グループ・ワ

ーク等の学習では、互いの言語能力を高め、質の高い話し合いをするための力、「生きてはたらく言語能力」を育成していかなければならないのです。つまり、今、学校教育がめざす方向の中で、国語科はその屋台骨となる、重要な役割を担っているということです。

そういった視点で、これまで先輩方が創り上げてくださった財産の基盤にし、さらに新たな研究を進めていきたいと考えています。

平成二十九年度の全国大会を見据え、新しい学習指導要領に示された指導内容の具体や、指

導の手立てについてご提案できればと思っております。先生方が国語科の各教室で日々実践され、研究されている部分も多いかと思っておりますので、是非多くの先生方にご参加いただきたいと思います。

## 三 研究について

### 研究組織

研究実践は、県中国語研究部と各地区の国語科研究会、授業担当校とが連携して行っていきたいと考えています。各領域の研究部と、各地区の国語部会とを前出の図のように結び、領域部会の研究テーマを設定したり、授業研究会や研修会を協同で行ったりして進めていきます。

そうした研究を通して明らかにしてきたことを、授業担当校である岐阜市立加納中学校、岐阜市立陽南中学校、岐阜大学教育学部附属中学校での公開授業、及び分科会での各地区の実践発表にて示していくこととなります。授業での実際の指導、その

中で生徒の姿から、研究の成果を検証していきたいと考えています。

## 四 当日について

期日）平成二十九年十月二十六日（木）  
二十七日（金）

### 日程・内容

#### 一日目

ホテルグランヴ エール岐山

一三：三〇～ 受付

一四：〇〇～ 全体会（基調提案）

一五：〇〇～ 講話、記念講話

一九：〇〇～ 情報交換会

#### 一日目

加納中・陽南中・附属中

九：四〇～ 公開授業

ホテルグランヴ エール岐山

一一：二〇～ 授業研究

一三：三〇～ 分科会（実践提案）

一五：二五～ 閉会行事

多くの先生方のお力添えがないと大会を運営していくことができません。研究・運営両面でお支えください。

## 五 その他の研修活動について

□明日の授業を考える会 国語の授業研修会)

期日）八月五日（木）午前

会場）岐阜市立境川中学校

昨年度、県内の二十代若手国語科教員を対象として、日ごろの授業実践における悩みを交流したり、領域の指導に関して学び合ったりする研修会を開催したところ、非常に好評をいただきました。昨今の事情により、校内に先輩の先生がいらつしやらなかつたり、中には国語科がお一人だつたりする学校もあります。また、そうでなくても「もっと国語の授業について学び、研鑽したい」という意欲をもたれる先生は多くいらつしやいます。

そこで、今年度は、皆さんで授業をどのように作っていけばよいのか考える時間を設定したいと思います。昨年度までの「若手」という枠に限らず、国語の授業で困っている先生方と実践を通して明日の授業を考えたい

と思います。

各校に案内及び参加申込書が届きます。積極的な参加をお待ちしています。

□「ぎふこくご」実践論文募集

本年度も、各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広め、学び合うことを目的として「ぎふこくご」実践論文募集事業を行います。各市郡の代議員の先生から、各校に要項が配付されていることと思います。国語科の今日的課題をふまえた提案性のあるご実践、生徒の実態に即した工夫あるご実践等、先生方の熱意ある授業実践をお待ちしております。よろしく申し上げます。

□ Web 「ぎふこくご」

県中国研のホームページです。先輩方が書かれた「ぎふこくご」の復刻版や、授業に活用できるコンテンツも多く掲載しています。是非ご活用ください。

# 岐阜県中国研の皆様へ

研究総括 西門 純

平成二十七年度中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成

「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」

### 一 はじめに

昨年十月に 第二十一回岐阜県中学校国語科研究部会可茂大会」が開催されました。可茂大会の発表を通して、岐阜県の国語をみんなで考える一年になったと思います。会場校、授業提議を一手に引き受けてくださった中部中学校。その発表を陰日向となって支えてくださった可茂地区の先生方。ともに授業検討をされた中国研の各領域長や部員の方々。多くの方々のお力添えによって大会を終えることができたと思います。自分自身、

学校を超えて協力し合えたことに満足感を覚えています。

さて、いよいよ平成二十九年度に中国研全国大会を岐阜県で開催します。中国研には他教科にあるような東海ブロックが存在しません。だからこそ、岐阜県から発信していくことは、岐阜県中学校国語科研究部会の悲願でした。岐阜県プラン」を提唱し、全国大会で発信した二十年前のように、これまで岐阜県中国研として研究を重ねてきた「言語活動」の成果を発信したいと考えています。

全国大会に向けて、岐阜県の国語を、全県挙げて考える一年です。

昨年度の可茂大会の成果と課題を受け、新たに研究テーマを掲げ、全国大会に向けてともに歩んでいきたいと考えています。よろしく申し上げます。

### 二 今年度の研究主題

平成二十七年度中国研 研究主題  
生きてはたらく言語能力の育成  
「言語能力の高まりを実感する  
言語活動の充実を通して」

今年度は、この研究主題について、各研究部会と各地区が力を合わせ、方向性を明らかにしていく一年になっていきます。

教育の今日的な方向性に加え、これまで岐阜県中国研として研究を重ねてきた「明日に生きる言語能力の一覧表」、言語活動「一覧表」や「単元指導計画」などの修正も行いながら、平成二十九年度の全国大会に向けて、新たな一歩を踏み出していきたいと考えています。

### 生きてはたらく言語能力の育成

岐阜県中国研では、「生きてはたらく言語能力の育成」について、表現力と理解力の両面に身に付けた生徒が、社会生活などの多様な場面や状況に応じて、その力を生かし、適切に表現したり、正確に理解したりする力「関心・意欲・態度なども含む」として育成することと捉えてい

ます。

そのために「話す・聞く」「書く」「読む」「言語」の各領域ごとに副主題を設定し、「言語能力の育成」を図ろうとしています。

### 三 研究副主題について

生きてはたらく言語能力」を、それぞれの領域において、どのような力の高まりであるかということを確認にして取り組みたいと考えています。その力をより詳細にとらえるためには、二領域一言語事項に関わって、何を高めるのか確認にして、定義付けていくことで、より鋭角的に研究が進められると考えました。

平成二十九年度の全国大会を

見据え、それぞれの領域をさらに細分化します。また、それぞれの領域を各地区で担当していただき、研究部とともに副主題を設定していきたいと考えています。具体的には、夏休みに行われる夏季研修会で進めていく予定です。

#### 細分化した領域と担当地区

話す・聞く ↓ 可茂地区  
書く 論理) ↓ 東濃地区  
書く 実用) ↓ 岐阜地区  
読む 文学) ↓ 美濃地区  
読む 説明) ↓ 西濃地区  
言語文化 ↓ 飛騨地区

### 四 言語活動の充実」とは何か

#### 岐阜県中国研の考える言語活動

付けたい力を明確にした、  
単元を貫く言語活動

今回の学習指導要領の改訂で最も重視されたことの一つに、「国語科指導においては、言語活動を通して指導事項を確実に身に付けさせる」ことが挙げられています。

しかし、「一言に「言語活動」と言っても、なかなか明確にとらえることができません。そこで、岐阜県中国研として、この「言語活動」についてのとらえを明確にしました。

岐阜県中国研でとらえている言語活動とは「目的性、課題解決的に言語を使って、単元を貫いて学習していくことのできる活動」だととらえています。このように単元を構想すれば、生徒は学習に対しての目的を持ち、主体的に学習を進めていくこと

ができると考えています。中国研では、この「付けたい力を明確にした、単元を貫く言語活動」を充実させることこそが、今の国語科で求められているものであると考えています。

例えば、「一年生の書くこと」の単元「分かりやすく説明しよう」において、単元を貫く言語活動を「私のお気に入りの場所を友達に紹介しよう」と設定したとします。その場合、「取材」「情報整理」「構成」「記述」「推敲」「交流」までの一連の学習活動を全て「私のお気に入りの場所を友達に紹介する」という立場(観点)で行うことになります。このことにより、一貫した考えのもとで目的性、課題解決的な学習を行い、生徒の学習意欲を

喚起するとともに、その単元における指導事項の重点化、つまり付けたい力を明確にすることができると考えています。

## 五 単元を貫くという意味

現在、言語活動について、書くことの指導でいえば、取材時にメモすることの位置付け、構成でのワークシートへの記入、話合いの位置付けなどが言語活動だと考えられていることがあります。また、これらの工夫をすることが言語活動の充実だと考えられていることもありません。

しかし、これらは今求められている言語活動ではありません。

岐阜県中国研で考えている言

語活動は、付けたい力を明確にした、単元を貫く言語活動だと捉えています。この単元を貫くとは、単元の初めから終わりまで一貫して学習を進めていける活動」ということを意味しています。学習のゴールを生徒と共有し、その活動に対する課題解決的な学習を積み重ね、その上で、付けたい力が付いたかどうかを評価するといった単元の初めから終わりまで一貫して学習を進めていける活動」すなわち、単元を貫く言語活動」を位置付けた指導を行うという考え方です。

## 六 今年度の研究の方向

本年度は、平成二十九年度の全国大会に向けた研究の方向、

研究内容を次のように考え、実践します。

### 【研究副主題の設定】

- ・八月十八日の夏季研修会において、研究部長と領域担当地区で研究副主題を設定する。
- ↓各研究部会の考える「言語能力の高まり」を具現化する。

### 【指導計画の工夫】

- ・生きてはたらく言語能力の具体化「一覧表」を位置付けた年間（単元）指導計画の作成
- ・中学校三年間で身に付けさせたい言語能力を網羅した「生きてはたらく言語能力の具体化「一覧表」」の作成

### 【指導方法の工夫】

- ・生きてはたらく言語能力の具体化「一覧表」の活用と言語活動の工夫
- ・岐阜県ならではの地域教材
  - ・新しい単元の指導の開発
- ・指導方法の明確な指導案の書き方の提案

これらのことを、可茂大会の成果をもとに全国大会に向けて、提案・発信していきたいと考えています。

## 七 さいごに

全国大会という、またとない機会を最大限に生かし、県内すべての国語教師の皆様とともに理念や方向性などを共通理解していけたらと考えています。よろしくお願ひします。